

2017年 国際女性デー広島県集会

とき **3月5日(日) 14:00~16:00**

※デモ行進(雨天決行) 12:45 県庁前集合 13:00 出発

ところ **ワークピア広島 4階芙蓉** 広島市南区金屋町1-17 TEL (082)261-8131

～ヒロシマとジェンダー～「表現から見た栗原貞子の生き方」

講師 **森田裕美さん**(中国新聞文化部記者)

「生ましめんかな」「ヒロシマというとき」等で知られる詩人栗原貞子は、戦前戦中に、妻であり母であり女である自分自身の生きづらさを作品に残しています。また「ヒロシマ婦人新聞」を発行し、「女が社会と共にあるという自覚と同時に社会を動かしていく力を持ったとき、はじめて婦人と子どもの権利は守られていくでしょう」と訴えました。

栗原貞子の持つフェミニズム性についての取材(2015年12月に中国新聞において連載)を通して感じたことを、自分自身の生き方と重ね合わせながら森田裕美記者に語っていただきます。

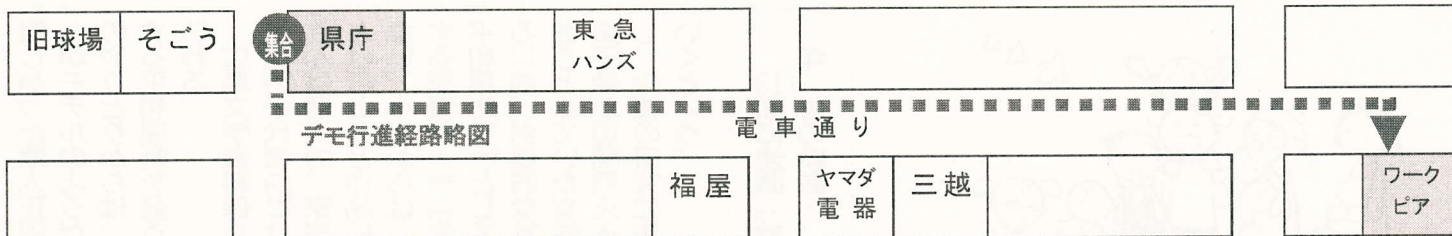


～国際女性デーの歴史～

1908年3月8日、不景気のどん底にあったニューヨークのイーストサイドで働く女性たちが「パンをよこせ!」「女性に参政権を!」と集会を開きました。1910年、デンマーク・コペンハーゲンで開かれた世界会議でドイツのクララ・ツェトキンが「この日を政治的、社会的な男女不平等の全てをなくし、世界の平和と戦争反対のための闘争の日としよう」と提唱したことから「国際女性デー」が始まり、今年は107年目になります。

広島県においても、1975年6月、当時の県労婦人部など9団体で「国際婦人年広島県集会」を開催し、それをもとに翌1976年3月、第1回目の「国際婦人デー広島県集会」を開催しました。以降、毎年県内の女性たちが結集して「広島県集会」を開催しています。

日本はいまだ、「世界男女平等度ランキング」において、OECD加盟国内で最低水準の111位(144か国中)という実態です。女性自らが主体となる女性参画運動の重要性は、ますます高まっています。



2017年国際女性デー広島県集会実行委員会

問合先: 女性会議広島県本部(Tel 082-221-2768)